

6 3 3 1 - 6 7  
平成 1 6 年 7 月 2 6 日

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除所長

平成 1 6 年度病害虫発生予報第 4 号について  
平成 1 6 年度病害虫発生予報第 4 号を発表したので送付します。

## 平成 1 6 年度病害虫発生予報第 4 号

向こう 1 か月間における農作物の主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

### 発生予報の概要

作物名	病害虫名	発生量の 平年比	本文の記 載ページ
普通期水稲	葉いもち	やや少	2
	紋枯病	並	2
	セジロウンカ	やや少	2
	トビイロウンカ	やや少	2
	コブノメイガ	やや少	2
野菜類全般	アブラムシ類	並	3
	ハスモンヨトウ等の鱗翅目(チョウ目)害虫	並	3
露地キュウリ (中山間地域)	べと病	並	3
	うどんこ病	やや多	3
	褐斑病	やや多	3
トマト	トマト黄化葉巻病(シルバーリーフコナジラミ)		4
果樹全般	果樹カメムシ類	並	4
カンキツ	かいよう病	やや多	5
	黒点病	やや少	5
	ミカンハダニ	やや少	5
チャ	炭疽病	やや少	5
	もち病	並	5
	チャノコカクモンハマキ	やや少	6
	カンザワハダニ	多	6
	チャノキイロアザミウマ	並	6
	チャノミドリヒメヨコバイ	やや多	6
	クワシロカイガラムシ	やや多	6

### 作物の生育状況(7月中旬)

普通期水稲は分けつ最盛期、露地キュウリは中山間地では収穫最盛期、温州みかんは果実肥大期、茶は3番茶の摘採前後であった。

### 8月の気象予報

気温は高い、降水量は平年並か少ない、日照時間は平年並か多いと予想されている。  
(1か月予報 鹿児島地方气象台7/23発表)

## 発生予報の根拠および防除対策

### 普通期水稲

#### 1 葉いもち（やや少）

[ 予報の根拠 ]

- 1) 7月中旬の葉いもちの発生面積率5.4%（平年24.9%）、発病株率0.1%（平年8.5%）は平年よりやや少ない。
- 2) 8月の気温は高い、降水量は平年並か少ないと予想されている。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 葉いもちの見られるほ場では早めに防除する。
- 2) 穂いもちについては、出穂前に粒剤を施用するか、粉剤または液剤による穂ばらみ後期と穂揃期の防除を徹底する。

#### 1 紋枯病（並）

[ 予報の根拠 ]

- 1) 7月中旬の巡回調査では発生を認めていない。
- 2) 8月の気温は高い、降水量は平年並か少ないと予想されている。

[ 防除上の注意 ]

- 1) イネの抵抗性が低下する幼穂形成期から穂ばらみ期にかけて上位葉鞘に進展するので、防除は穂ばらみ期に行い、その後も上位葉鞘への進展が続く場合は2回目の防除を実施する。

#### 3 セジロウンカ（やや少）

[ 予報の根拠 ]

- 1) 7月中旬の発生面積率30.4%（平年72.0%）は平年より少ない、10株当たり虫数0.1頭（平年5.0頭）は平年より少ない。
- 2) 県内4地域に設置された予察灯への誘殺状況も少なく、現在までの飛来は少ないものと推測される。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 幼穂形成期頃に多発生すると吸汁による生育抑制、下位茎葉の黄変枯死、出穂の遅れが生じるので、発生状況を見て若齢幼虫期に防除する。

#### 4 トビイロウンカ（やや少）

[ 予報の根拠 ]

- 1) 7月中旬の巡回調査では発生を認めていない。
- 2) 佐土原町（農試）の予察灯で6月下旬～7月上旬に飛来がごく少数確認されたものの、他地域を含めその後の発生は現在のところ認められない。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 飛来性害虫であるので、ほ場での発生状況の把握に努める。特に、育苗箱施薬剤を実施していないほ場では増殖に注意し、7月下旬～8月上旬頃の短翅型雌の防除を徹底する。（要防除密度は短翅型雌成虫が株当たり0.2頭）

#### 5 コブノメイガ（やや少）

[ 予報の根拠 ]

- 1) 7月中旬の発生面積率3.6%（平年63.8%）は平年より少ない、被害株率0.1%（平年16.7%）は平年より少ない。
- 2) 県内2か所（都城市・えびの市）のライトトラップ、予察灯でもほとんど誘殺されず、飛来量は少ない。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 防除適期は、粒剤を使用する場合は発蛾最盛期で、粉剤及び水和剤等を使用する場合は幼虫ふ化期（発蛾最盛期の7日後）である。

野菜類全般

1 アブラムシ類 (並)

[ 予報の根拠 ]

1) 7月中旬の露地キュウリでの発生面積率8.3%( 平年13.3% )、葉当り虫数0.1頭( 平年2.2頭 )は平年並である。

[ 防除上の注意 ]

1) 作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。

2 ハスモンヨトウ等の鱗翅目(チョウ目)害虫 (並)

[ 予報の根拠 ]

1) ハスモンヨトウのフェロモントラップでの誘殺状況は、都城市では平年並、西都市では平年よりやや少ない傾向である。

2) タバコガ・オオタバコガのフェロモントラップ(西都市)での誘殺状況は概ね平年並である。

3) 8月の気温は高い、降水量は平年並か少ない、日照時間は平年並か多いと予想されている。

[ 防除上の注意 ]

1) 早期発見に努め、若齢幼虫期の防除を徹底する。

露地キュウリ  
(中山間地域)

1 ベと病 (並)

[ 予報の根拠 ]

1) 7月中旬の発生面積率58.4%( 平年82.1% )、発病葉率12.2%( 平年15.9% )は平年並である。

2) 8月の降水量は平年並と予想されている。

[ 防除上の注意 ]

1) 多発すると防除が困難なので、予防散布あるいは初期防除に重点を置く。

2) 草勢の衰えは発生を助長するので、肥料切れしないよう肥培管理に注意する。

2 うどんこ病 (やや多)

[ 予報の根拠 ]

1) 7月中旬の発生面積率41.6%( 平年30.8% )は平年並、発病葉率6.3%( 平年3.4% )は平年よりやや多い。

[ 防除上の注意 ]

1) 最初は葉の裏に発生しやすいので注意し、早期発見に努め初期防除を徹底する。

2) 葉が老化すると多発する傾向にあるので、老葉はなるべく除去し通風・採光をよくする。

3 褐斑病 (やや多)

[ 予報の根拠 ]

1) 7月中旬の発生面積率16.7%( 平年27.6% )は平年並、発病葉率5.1%( 平年1.4% )は平年より多い。

[ 防除上の注意 ]

1) 多発してからの防除は困難なので初期防除を徹底する。

2) 昨年多発したほ場では特に注意する。

トマト

1 トマト黄化葉巻病（シルバーリーフコナジラミ）

[ 防除上の注意 ]

- 1) 沿海地帯を中心に県内ほぼ全域でトマト黄化葉巻病の被害が拡大している。  
 トマト黄化葉巻病は発病以後の収穫が皆無になる恐ろしい病気で、シルバーリーフコナジラミによって他の株に次々に伝染する。発病株は伝染源となるので家庭菜園のトマトも含め、見つけ次第抜き取り処分する必要がある。
- 2) 育苗・栽培施設内外の雑草その他栽培植物はシルバーリーフコナジラミの増殖を助長する種類が多いので、除草を徹底し栽培目的以外の作物や観葉植物等を栽培しない。
- 3) シルバーリーフコナジラミの施設への侵入を防ぐために、育苗・栽培施設の開口部は、0.8mm目以下（0.4mm以下が理想）の防虫ネットを設置するとともに、育苗期間中の防除を徹底する。
- 4) 施設内に黄色粘着トラップを設置し、コナジラミの密度を低下させる。

果樹全般

1 果樹カメムシ類 （並）

[ 予報の根拠 ]

- 1) 最近（6月6半旬～7月2半旬）のチャバネアオカメムシ誘殺数は、過去5年間と比較してほぼ同等である。

表1 フェロモントラップによるチャバネアオカメムシ及びツヤアオカメムシの誘殺数（6月6半旬～7月2半旬）

	延岡市		都農町	
	チャバネ	ツヤアオ	チャバネ	ツヤアオ
平成16年	383	2	160	1
平均(平11～15)	138	1.4	168	0
平成11年	72	2	118	0
12年	275	3	414	0
13年	2	0	15	0
14年	302	1	124	0
15年	38	1	欠測	欠測

[ 防除上の注意 ]

- 1) 果樹カメムシ類は園外から飛来し、地域や時期によって発生量が大きく変動するので、園内外を見回り、早期発見・早期防除に努める。

## カンキツ

### 1 かいよう病 (やや多)

[ 予報の根拠 ]

- 1) 7月中旬の果実調査では、発生面積率3.7% ( 平年5.3% )、発病果率0.3% ( 平年0.3% ) は平年並である。
- 2) 7月中旬の春葉調査では、発生面積率29.6% ( 平年15.6% )、発病葉率3.0% ( 平年0.9% ) は平年より多い。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 発病した枝葉は伝染源となるので可能な限り取り除き園外に持ち出して焼却する。
- 2) 風雨による枝葉の損傷を少なくするため防風垣を整備する。特に台風の襲来が予想される時は事前に薬剤散布を行う。

### 2 黒点病 (やや少)

[ 予報の根拠 ]

- 1) 7月中旬の果実調査では、発生面積率3.7% ( 平年23.3% ) は平年より少、発病果率0.4% ( 平年3.7% ) は平年より少ない。
- 2) 8月の降水量は平年並か少ないと予想されている。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 伝染源となる枯れ枝は、可能な限り取り除き園外に持ち出して焼却処分する。
- 2) 雨が多いと多発する恐れがあるので、積算降水量300mm毎又は1か月おきに薬剤散布を行う。

### 3 ミカンハダニ (やや少)

[ 予報の根拠 ]

- 1) 7月中旬の発生面積率18.5% ( 平年38.2% ) は平年より少、寄生葉率4.4% ( 平年33.3% ) は平年より少ない。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 生息密度が高くなると防除が困難になるので、寄生葉率30% ( 1葉当たり虫数0.5 ~ 1頭 ) を目安に防除を行う。

## チャ

### 1 炭疽病 (やや少)

[ 予報の根拠 ]

- 1) 7月中旬の発生面積率63.2% ( 平年55.5% ) は平年並、 $m^2$ 当り病葉数2.3 ( 平年5.3 ) は平年よりやや少ない。
- 2) 8月の降水量は平年並と予想されている。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 新芽の生育期に雨が多いと発生しやすい。開葉期に防除を行い、多発生が予想されるときには追加防除する。

### 2 もち病 (並)

[ 予報の根拠 ]

- 1) 7月中旬の発生面積率5.3% ( 平年6.5% )、 $m^2$ 当り病葉数0.1 ( 平年0.5 ) は平年並である。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 秋芽の生育期に雨が多いと感染しやすい。特に中山間地域では発生が多いので秋芽の生育期に薬剤散布をする。

### 3 チャノコカクモンハマキ (やや少)

[予報の根拠]

1) 7月中旬の巡回調査では発生は認めていない。

[防除上の注意]

1) 都城市に設置したフェロモントラップ調査では、発蛾最盛期は平年並の6月11日～15日で、次の発蛾最盛期は平年と同様の7月下旬と予想される。

### 4 カンザワハダニ (多)

[予報の根拠]

1) 7月中旬の発生面積率31.6%(平年16.8%)、寄生葉率5.6%(平年1.2%)は平年より多い。

[防除上の注意]

1) 同一薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のロ-テ-ション散布を実施する。

### 5 チャノキイロアザミウマ (並)

[予報の根拠]

1) 7月中旬の払い落とし調査による発生面積率47.4%(平年62.1%)は平年よりやや少なく、払い落とし虫数5.2頭(平年14.5頭)は平年並である。

[防除上の注意]

1) この時期は卵・幼虫・蛹・成虫が混在し、とくに蛹は地表面にいて防除効果が低いので残効性の長い薬剤が1週間間隔での連続散布を行う。

### 6 チャノミドリヒメヨコバイ (やや多)

[予報の根拠]

1) 7月中旬の見取り調査による発生面積率47.4%(平年46.6%)は平年並寄生葉率5.8%(平年4.4%)は平年よりやや多い。

[防除上の注意]

1) チャノキイロアザミウマとの同時防除とする。

### 7 クワシロカイガラムシ (やや多)

[予報の根拠]

1) 7月中旬の巡回調査では発生面積率21.1%(平年9.8%)、寄生株率3.2%(平年0.5%)は平年(過去7カ年平均)より多い。

[防除上の注意]

1) 最近、増加傾向にあるので早期発見に努める。(周縁部から発生しやすい。)

2) 防除適期は幼虫ふ化開始から1週間後、または幼虫ふ化最盛期なので、ふ化状況をよく観察して防除する。

3) 薬剤散布は、成木園で10a当たり1,000リットル程度を目安に、噴口を茶株の中に差し込むなどして枝幹に十分かかるようにていねいに散布する。

#### その他

1 防除上の留意点等については、「病虫害・雑草防除等指導指針」(宮崎県・宮崎県植物防疫協会)を参照するが、農薬適用の有無などについては次のホームページで確認する。

日本植物防疫協会ホームページ <http://jppn.ne.jp>

農林水産省ホームページ <http://www.maff.go.jp/nouyaku/>

2 農薬の使用に当たっては、農薬使用基準の遵守並びに危被害の発生防止に努める。

特に水質汚濁性農薬ベンゾエピン剤(商品名、マリックス乳剤、粒剤等)は使用しないこと。

#### 3 発生量(程度)の区分

多い	(高い)	やや多いの外側10%の度数の入る幅
やや多い	(やや高い)	平年並の外側20%の度数の入る幅

平年並 平年値を中心として40%の度数の入る幅  
やや少ない (やや低い) 平年並の外側20%の度数の入る幅  
少ない (低い) やや少ないの外側10%の度数の入る幅  
(平年値は過去10年間の平均)

#### 4 予察情報の種類

病虫害防除所から発表する情報は次の5つです。

- 1) 予報・・・向こう1か月の発生状況を予測し、毎月25日前後に発表する。
- 3) 注意報・・・主要な病虫害の多発生が予想され、かつ早めに防除が必要な場合に発表する。
- 4) 警報・・・主要な病虫害の大発生が予想され、かつ緊急に防除が必要な場合に発表する。
- 5) 特殊報・・・県内で初めて発生を認めた病虫害がある時や、病虫害の発生様相が特異な時に発表する。
- 5) 防除情報・・・注意をうながす必要がある病虫害の発生状況や、各種の防除技術指導情報について随時発表する。(従来の防除速報にあたる)

お知らせ(<http://www.jppn.ne.jp/miyazaki/>)

病虫害防除所では、ホームページで情報を提供しています。予察情報の根拠となる地域別調査データ、防除対策等を登録しています。ぜひご利用ください。

#### 【文書取扱】

病虫害防除所 櫛間

TEL : 0985-73-6670

FAX : 0985-73-7499

E-mail : [ykusima@pref.miyazaki.jp](mailto:ykusima@pref.miyazaki.jp)